

まえがき

本書は、中東アラブ諸国における民間部門の発展状況と、直面する課題を明らかにしようとしたものである。中東アラブ諸国は、石油資源の多寡によって産油国と非産油国に分類されることが多いが、いずれの国においても1990年代以降に経済構造改革が模索されるようになった。その背景として、産油国では原油価格の低迷のために非石油部門の拡大が期待されるようになったこと、非産油国では債務危機にともなう公的部門の縮小が不可避となったことがあげられる。その後、2000年代の原油価格高騰によって、各国は1990年代とは異なる経済環境に直面することとなったが、経済構造改革の方針は継続された。むしろ各国は経済環境の好転した2000年代に改革を積極化させた。

経済構造改革が進められる中で経済活動の主要な担い手として想定されたのが民間部門である。民間部門は急増する労働力の雇用部門としても期待され、その拡大の行方は今後の持続的な経済成長の成否を決定づける要素となっている。本書では、主に中東湾岸諸国とエジプトを対象とし、各国の民間部門はどのような発展過程をたどり、また現在どのような課題に直面しているのかを検討したものである。中東アラブ諸国の民間経済主体への研究関心は、特に2000年代になって高まった。本書もその流れに沿うものであり、今後本書の各章で提起された研究課題に取り組むことで、さらに研究を進展させたい。

本書はアジア経済研究所で2008年度から2年間にわたって実施した共同研究会「中東における民間企業の成長と課題」の最終成果の一部である。本書の刊行に至るまでには、研究会に参加し活発な議論を展開してくださった委員諸氏、本書の審査過程での確かなコメントを頂いたレフリー2氏をはじめ数

多くの方々にお世話になった。この場を借りて感謝申し上げたい。

2010年7月

編者